

1. 産業領域

「食のみやこ熊本県」の創造とライフサイエンス産業分野

＜特定の理由＞

- 食・ライフサイエンス産業分野は、**食の循環と健康の連続性に着目し、本県における自然環境や産業面、学術領域における強みを活かすことができる主要な産業領域**である。加えて、スタートアップ企業が活躍するなど、将来にわたって、地域に根差した新たな産業群を創出する素地が備わっている。
- また、食・ライフサイエンス産業分野と**異なる産業領域を融合・掛け合わせ※で、更なるイノベーション・新産業の創出も見込まれる。**

※「食×半導体＝スマート農業」、「ライフサイエンス×半導体＝遠隔医療」、「食×観光＝食と一体化した観光」等

2. 対象エリア

熊本県全域のうち、重点支援企業の本社又は事業所の所在する市町村
(熊本市、八代市、人吉市、宇城市、合志市、南阿蘇村、益城町及び相良村)

○また、熊本県版の地域産業成長プランとして、本分野の他に、「**半導体・半導体ユーザー産業分野**」、「**観光交流関連産業分野**」のB計画・C計画を取りまとめています。



3. 目指す姿（目標）

（1）現状

農業産出額は全国トップクラスでありながら、「食」のイメージや「食事がおいしい」というイメージに結びついていない傾向にある。

ライフサイエンス関連のスタートアップも多数立地する一方、製品化や事業化等に多くの時間や研究開発費用を要する。

（2）目指すべき目標（2030年）

重点支援企業による積極的な設備投資を通じて、県内総生産の増加等を目指す。

- ・ 県内総生産(名目値) 3,250億円の増加
- ・ 官民設備投資額 150億円(累積)
(15億円/年)
- ・ 産業人材育成数 2,000人 (累積)

4. 勝ち筋

- ・ 6次産業化や販路開拓等、**食を核とした観光誘客の促進**等による高付加価値化と消費拡大を目指す。地域内生産物を生かす**企業・研究開発機能等の集積**を図り、農・食関連産業の集積を目指す。
- ・ 地産外商を推進する上で重要な**「商社機能」を充実**させ、マーケティングを実施していく。
- ・ 「県食のみやこ推進局」の旗振りの下で、産業所管部署と農業所管部署との**行政の縦割り**を排して、必要な支援を実施する。
- ・ ライフサイエンス系のスタートアップ企業を多く輩出している強みを生かし、**UXプロジェクトの更なる推進**等により、ビジネス創出の好循環を実現する。特に、**遠隔医療などの「半導体ユーザー産業」**と連携する。

5. 政策手段

（1）投資促進に向けた課題

＜設備投資支援＞

補助金・税制等による設備投資促進。

＜事業環境整備＞

イノベーションを生み出すための拠点となる施設、人材育成、人材間のネットワーキング、資金調達の円滑化支援、実証実験の支援、データ基盤整備等が不足。

＜産学連携＞

高い付加価値を創出する新産業・新事業を創出する観点や、産業界が必要とする人材を大学において育成する観点など、取組みの加速化。

（2）講じるべき政策パッケージ

- 国・県・支援機関が一体となって、計画推進の核となる**重点支援企業に対する重点支援**を進める。
- 具体的には、県が中心となり**企業ごとに担当職員を配置**。国と県が連携して設備投資補助金などの支援メニューを講じつつ、徹底した伴走支援により成長を促進する。